

令和6年用夏秋きゅうり病害虫防除基準

発行：J A さがえ西村山
さがえ西村山野菜振興協議会

※殺虫剤を散布する場合は、訪花昆虫に対する薬剤ごとの安全使用基準を徹底する。

防除時期	対象病害虫名	RAC	防除方法	【収穫前使用日数/使用回数】	注 意 事 項
は種前	つる割病疫病(立枯性)		床土の消毒を行う。		
	苗立枯病				
育苗期	苗立枯病	32	タチガレン液剤 500倍 (20ml/10ℓ) (は種直後/3回以内) を1㎡当たり3ℓ土壌かん注する。		
	つる割病		かぼちゃ台木に接ぎ木を行なう。		1. 接木苗は定植の際接ぎ木した部分に土をつけないように注意する。
定植時	アブラムシ類	4A 4A 4A	アクタラ粒剤5 を株当たり1g } スタークル粒剤 } を株当たり2g } のいずれかを植穴処理する。〔定植時/1回〕 ダントツ粒剤 }		1. 葉害防止のため軟弱徒長苗には使用しない。 2. 植穴の土壌と十分混和する。 3. 植穴処理の場合は、茎葉、根に薬剤が直接ふれないように注意する。
	疫病	UN,M3	ジマンダイセン水和剤 600倍 (16.6g/10ℓ) (前日まで/3回以内) を発病初期を重点に10a当たり100~300ℓ散布する。		1. 高畦栽培し排水をはかる。 2. 湿度の高いときに発生しやすい。
生	黒星病	1 M5,40	ベンレート水和剤 2,000倍 (5g/10ℓ) (前日まで/3回以内) } プロポーズ顆粒水和剤 1,000倍 (10g/10ℓ) (前日まで/3回以内) } のいずれかを10a当たり100~300ℓ散布する。		1. 本病は17~18℃位の低温多雨のときに発生が多くなる。 2. つる先や幼果に十分散布する。
	斑点細菌病	M1	キノンドー水和剤40 600倍 (16.6g/10ℓ) (前日まで/5回以内) 発病前から10a当たり100~300ℓ散布する。		1. 斑点細菌病を防ぐため連作をさげ、被害茎葉は処分し、ほ場の清掃につとめる。 2. カスミンボルドーを散布する時は葉害軽減のため必ずクレフノン100~200倍を加用するとともに、幼苗期、高温時、収穫間際の散布を避ける。
育	べと病(炭そ病)	M5,40 21 UN,M3 27,11 UN,M3,4 45,40 21,49	プロポーズ顆粒水和剤 1,000倍 (10g/10ℓ) (前日まで/3回以内) } ランマンフロアブル 2,000倍 (5ml/10ℓ) (前日まで/4回以内) } ペンコゼブフロアブル 1,000倍 (10ml/10ℓ) (前日まで/3回以内) } のいずれかを10a当たり150~300ℓ散布する。 ホライズンドライフロアブル 2,500倍 (4g/10ℓ) (前日まで/3回以内) } リドミルゴールドMZ 1,000倍 (10g/10ℓ) (前日まで/3回以内) } ザンプロDMフロアブル 2,000倍 (5ml/10ℓ) (前日まで/3回以内) } ゴーベックエンテクタSE 4,000倍 (2.5ml/10ℓ) (前日まで/2回以内) }		1. 高温時の使用はさける。 2. 炭そ病が発生するほ場ではダコニール1000 (1,000倍)、ペンコゼブフロアブル (1,000倍) テーク水和剤 (600倍) を散布する。 3. ホライズンドライフロアブル、ストロビーフロアブルは同一成分とみなし耐性菌出現防止のため連用は避け、総使用回数は2回以内とする。 4. プロポーズ顆粒水和剤はうどんこ病、褐斑病にも登録がある。
		褐斑病	10,1 7 M7,19 M7	ゲッター水和剤 1,500倍 (6.6g/10ℓ) (前日まで/5回以内) } カンタスドライフロアブル 1,500倍 (6.6g/10ℓ) (前日まで/3回以内) } のいずれかを10a当たり100~300ℓ散布する。 ダイアメリットDF 1,000倍 (10g/10ℓ) (前日まで/2回以内) } ベルクートフロアブル 2,000倍 (5ml/10ℓ) (前日まで/7回以内) }	
期	つる枯病	2 1	ロブラール500アクア 1,500倍 (6.6g/10ℓ) (前日まで/4回以内) を散布する。 トップジンMペースト 原液 (発病初期/5回以内) を塗布する。		
	うどんこ病	M7,19 11 M5 NC 3 3,UN,M3	ポリバリン水和剤 2,000倍 (5g/10ℓ) (前日まで/2回以内) } ストロビーフロアブル 3,000倍 (3.3ml/10ℓ) (前日まで/3回以内) } のいずれかを10a当たり150~300ℓ発生初期から散布する。 ダコニール1000 1,000倍 (10ml/10ℓ) (前日まで/12回以内) } カリグリーン 800倍 (12.5g/10ℓ) (前日まで/-) } ラリー水和剤 5,000倍 (2g/10ℓ) (前日まで/5回以内) } テーク水和剤 600倍 (16.6g/10ℓ) (前日まで/3回以内) }		1. 同一薬剤の連用はさける。 2. EBI剤 (ラリー水和剤、テーク水和剤) は、耐性菌出現防止のため、総使用回数は2回以内とする。 3. ストロビーフロアブルは褐斑病、べと病、炭そ病にも登録がある。また、おとうに葉害があるので飛散しないように注意する。浸透性を高める効果のある展着剤を使用すると葉害の恐れがあるので展着剤は加用しない。 4. ポリバリン水和剤は高温時の散布は避ける。 5. テーク水和剤はべと病、褐斑病、炭そ病、灰色かび病にも登録がある。 6. ダコニール1000はべと病、褐斑病、灰色かび病、炭そ病、黒星病にも登録がある。
期	ハダニ類	13 6 20B	コテツフロアブル [㊟] 2,000倍 (5ml/10ℓ) (前日まで/3回以内) } コロマイト乳剤 1,500倍 (6.6ml/10ℓ) (前日まで/2回以内) } のいずれかを10a当たり150~300ℓ散布する。 カネマイトフロアブル 1,000倍 (10ml/10ℓ) (前日まで/1回) }		1. 薬剤は葉の裏まで丁寧に散布する。 2. コロマイト乳剤は単用で使用し、展着剤は加用しない。 3. コテツフロアブル [㊟] ミカンキイロアザミウマにも登録がある。
	アブラムシ類	- 3A 9B 4A 29	エコピタ液剤 100倍 (100ml/10ℓ) (前日まで/-) } テルスターフロアブル [㊟] 4,000倍 (2.5ml/10ℓ) (前日まで/3回以内) } のいずれかを10a当たり100~300ℓ散布する。 チェス顆粒水和剤 5,000倍 (2g/10ℓ) (前日まで/3回以内) } ダントツ水溶剤 4,000倍 (2.5g/10ℓ) (前日まで/3回以内) } ウララDF 2,000倍 (5g/10ℓ) (前日まで/3回以内) }		1. 葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。 2. 合成ピレスロイド剤 (テルスターフロアブル [㊟]) は、抵抗性害虫出現防止のため、同一ほ場における総使用回数は2回以内とする。散布後の作業にもマスクを着用する。蚕・魚類に対する毒性が特に強いので注意する。 3. モザイク病対策 アブラムシ類の発生初期から防除を徹底する。 被害株は抜き取る。発病株にふれた手で健全株にふれないようにする。
期	アザミウマ類	4A 30	モスピラン顆粒水溶剤 [㊟] 2,000倍 (5g/10ℓ) (前日まで/3回以内) } を10a当たり100~300ℓ散布する。 グレーシア乳剤 2,000倍 (5ml/10ℓ) (前日まで/2回以内) }		1. モスピラン顆粒水溶剤 [㊟] はアブラムシ類、ウリノメイガにも登録がある。

農薬の使用にあたっては、使用回数に加え、有効成分ごとの総使用回数も定められているので遵守する。

成分名	RAC	農薬名	使用回数	同一成分総使用回数	備 考	成分名	RAC	農薬名	使用回数	同一成分総使用回数	備 考
クロチアジン	4A	ダントツ粒剤	1回以内	4回以内	育苗期及び定植時1回以内、定植後3回以内	イミノクタジン	M7,19	ポリバリン水和剤	2回以内	7回以内	
		ダントツ水溶剤	3回以内					M7	ベルクートフロアブル		
マンゼブ	3,UN,M3	テーク水和剤	3回以内	3回以内		ポリオキシン	M7,19	ダイアメリットDF	2回以内	2回以内	
	UN,M3	ペンコゼブフロアブル	3回以内				M7,19	ポリバリン水和剤	2回以内		
	UN,M3,4	リドミルゴールドMZ	3回以内				M7,19	ダイアメリットDF	2回以内		
	UN,M3	ジマンダイセン水和剤	3回以内								
TPN	M5	ダコニール1000	12回以内	14回以内	土壌灌注2回以内 散布及びくん煙他12回以内	トリフルラリン	3	トレファノサイド [㊟] 2.5	1回	1回	
	M5,40	プロポーズ顆粒水和剤	3回以内					トレファノサイド乳剤	1回		
除草剤		バスタ液剤	10	300~500ml/100~150ℓ	収穫前日まで (雑草生育期: は種・定植前又は畦間処理)	雑草茎葉散布	3回以内	一年生雑草	3回以内	6回以内	種子への処理は1回以内、は種後は5回以内

除草剤使用基準

	薬 剤 名	RAC	10 a 当り薬量/散布量	使 用 時 期	使 用 方 法	使用回数	適 用 雑 草	特 性
土 壌 処 理 剤	トレファノサイド粒剤2.5	3	3~4kg	定植前 (植穴掘前)	全面土壌散布	1回	一年生雑草	・露地栽培で使える。 ・ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科には効果がない。
	トレファノサイド乳剤		200~250ml/100ℓ	定植前 (植穴掘前)	全面土壌散布	1回	一年生雑草	
	クレマート乳剤		3	200~400ml/100~150ℓ	定植前 (雑草発生前)	全面土壌散布	1回	一年生雑草
処 理 剤	バスタ液剤	10	300~500ml/100~150ℓ	収穫前日まで (雑草生育期: は種・定植前又は畦間処理)	雑草茎葉散布	3回以内	一年生雑草	・非選択性、スギナに効果高い